

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：令和3年11月10日
発行者：袋井市総合戦略課

「創生会議」メンバーを刷新 若手実務者や女性の割合をさらに高めて



創生会議ふくろい部会

Afterコロナの社会を見据え これから取り組むべきことは…

2021.11.8 @袋井新産業会館「キラット」

(地方創生の進捗状況)

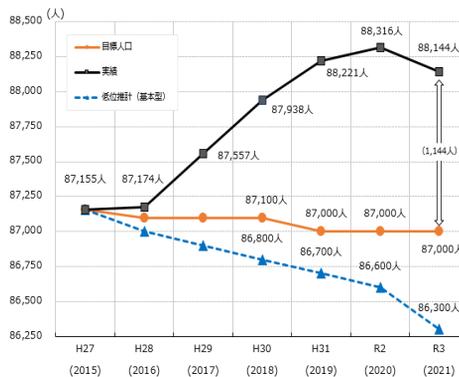
本市人口は88,144人（R3.4.1現在）となり、コロナ禍での婚姻・出産控えなどによる出生数の減少や、タイ、フィリピンなどの東南アジア諸国を中心とした外国人転入者の減少により、**人口が前年比で172人減少し、自然・社会増減ともに減少**したものの、人口ビジョンで設定した目標人口推計を上回る水準を維持した。

令和2年国勢調査の人口速報値では、静岡県人口は3,635,220人となり、前回の平成27年調査から65,085人（1.8%）減少した。前回調査から人口が増加した市町は、**本市と菊川市、掛川市、長泉町の3市1町のみ**となった

<主だった取組>

- ・GIGAスクール構想「1人1台学習端末」の早期整備完了
- ・コロナ禍における「暮らし・経済対策」
- ・ふくろい産業イノベーションセンターの開設
- ・東京オリパラ「ホストタウン」アイルランド受入れ
- ・外国人市民向け生活オリエンテーション動画制作ほか

各取組の指標を踏まえ、令和2年度の取組の総括は「もうひと踏ん張り」と評価。【詳細は、裏面参照】



挑戦1 「ふくろい人」人づくりへの挑戦

- GIGAスクール構想に対応した**1人1台の学習タブレット端末の整備完了**などICT教育環境の充実をはじめ、幼小中一貫教育や英語教育など時代を先取る取組を推進した。
- 地域・学校・産業界等が連携・協働し、**高校生と地元事業者が地元企業や中小企業の魅力を語り合う討論会**や、地域の産業や企業の理解を深めるための企業説明会等を実施した。
- 東京五輪の開催に向け**アイルランドチームの受入**等の準備を行ったほか、コロナ禍においても市民がスポーツや文化芸術に親しむ機会を創出させるための取組に挑戦した。



(2.7点)

挑戦2 「しっかり稼ぐ」しごとづくりへの挑戦

- 企業の持続的な成長を支援するため、静岡理科大学、商工団体、金融機関と連携し、**産業イノベーションセンターの開設準備**を行ったほか、地域の稼ぐチカラを高めるため最新版のデータを用いた**地域経済循環分析を実施**した。
- 農業の担い手を育成するため、商品開発などの知識や技術を習得する**「ふくろい農業未来塾」を開催**したほか、特産品の販路拡大やブランドイメージの向上を図った。
- 誘客や滞在時間の増加による観光消費の拡大を目的とした**夜の賑わいづくり創出事業**や地域資源を活用したイベントを実施したほか、**公共空間を活用した賑わい創出**に取り組んだ。



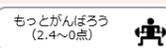
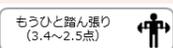
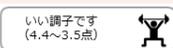
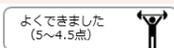
(2.8点)

挑戦3 「支え合い」誰もが活躍するまちづくりへの挑戦

- 人口減少と高齢化の進展による公助縮小化においても持続的な発展が可能な地域経営のあり方に関する調査・研究を行うため**「人生100年時代の地域経営のあり方に関する調査研究」に着手**したほか、健康に対する意識や知識を高めるための各種活動を実施した。
- 地域コミュニティの維持・活性化に向け、**LINE等による情報発信の有効性について検証**したほか、まちづくり協議会が行う先駆的な取組に対し支援を行った。
- 生活オリエンテーション動画の公開**など**外国人市民への支援**を充実させたほか、東京五輪等を通じて外国文化の理解を深める取組を実施した。



(2.8点)



主な意見 (Afterコロナの社会を見据え、これから取り組むべきこと)

コロナ禍で会議がオンラインとなり移動時間などが節約されたが、人と人との接点が減り「人間関係が希薄化」している。今後は、**オフラインとオンラインを上手に使い分けがことが大切**になる。

コロナ禍により子どもの運動機会が減少。最近の子どもは、体力低下だけでなく、**危険回避能力が低下している**ことが心配。

イベントや対面での販売ができない今、従来のビジネスモデルでは太刀打ちできない。**現状を打破するには、失敗を恐れず、色々模索し、挑戦をし続けていくしかない。**

観光のスタイルが、団体旅行がなくなり、**観い・近い・短い+「少人数」+「再び」に変化している。**

ESG投資など倫理観や環境への負荷低減が付加価値を生む**社会変化を強く意識した商品開発に取り組むことが必要。**

デジタル社会において、データで「見えるモノ」と「見えないモノ」がある。コロナ禍で地域外資本の飲食店などは軒並み撤退したが、地元の商店は互いに支え合い地域を守ろうとしている。**「このまちで暮らす」(住民としてなにができるか)という感覚が大事。**

子どもの自己肯定感が低いことを危惧している。これからの時代を生き抜くチカラを育む上で**幼児期の多様な体験や本物に触れる機会が、これまで以上に大切になる。**

DXや人生100年時代の推進には、社内の風土の変革がカギ。**社員の学び直しを含め意識改革に向けた取り組みを推進すべき。**

地域で必要な人材を地域ぐるみで(産学官が連携し)しっかり育てていくことが大事。

移住後も世界中の友達とオンラインで繋がっている。今後は**人々の繋がりを含め、リアルなまちでの暮らしとメタバースの世界とのデュアルな暮らしが普及していく。**

イベントやSNSを通じて**「共感」を得た仲間と共に活動する取組が増えている。**



(令和3年10月未現在/順不同・敬称略)

輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生会議 [ふくろい部会] メンバー

株式会社杏林堂薬局	取締役副会長	青田 英行	静岡県立農林環境専門職大学	学長	鈴木 滋彦
Realabo (料理講師、ITサポート)	代表	足立 美和	袋井商工会議所	副会頭	豊田 浩子
学校法人山名学園 山名幼稚園	理事長	諸井 理恵	静岡理科大学	総務部長	久留島 康二
安間製茶	代表	安間 孝介	アスリートクラブ	主宰	岡田 千詠子
袋井市観光協会	理事	大場 和明	静岡大学情報学部	教授	遊橋 裕泰
ヒンディー語講師	講師	下田 孝子	日本貿易振興機構 (JETRO浜松)	所長	永盛 明洋